

年頭のご挨拶



鹿児島市医師会病院 院長

園田 健

あけましておめでとうございます。会員の皆様ご家族及び各医療機関の職員の皆様、ともに輝かしい新たな年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、5月1日に元号が平成から令和へと切り替わりました。天皇の退位に伴う改元は憲政史上初で天皇の譲位は約200年ぶりと報じられています。元号の典拠は万葉集によるもので中国の漢籍ではなく初めて日本の「国書」になったものでした。令和にこめられた調和のとれたよい世の中になってくれることを願います。

また、9月から約一ヶ月半にわたってラグビーワールドカップ日本大会が開催されました。日本代表は4年前の大会で強豪南アフリカ共和国を倒し、世紀の番狂わせと世界をあつと言わせたのですが、今回は難敵アイルランドさらに、前回一敗地にまみれた相手スコットランドを倒し、念願のベスト8入りを果たしました。日本チームの大きな相手に二人がかりでタックルし、倒れてもすぐに起き上がり向かっていく不屈の精神と自己犠牲により皆がいわゆる“ONE TEAM”となって目標達成してゆく姿は日本人の武士道などにも通ずる実にすがすがしいものでした。スポーツを通じて国が一つにまとまった瞬間でした。

一方、過去最強クラスの台風15号をはじめ相次ぐ台風により住宅被害や農産物被害、道路や電気・水道などインフラの破壊などから昨年西日本豪雨などを踏まえて建てられた国土強靭化計画の履行がさらに迅速に行われる事が望まれるところであります。

また財政再建・社会保障費の財源たるべき消費税増税が10月から導入されました。その際消費の落ち込みを考慮し政府は軽減税率や期間限定ポイント還元などを導入致しました。しかし予想以上の駆け込み需要の発生また自然災害に伴う家計への圧迫、生産・物流への影響から今後の景気の落ち込みが懸念されるところであります。

海外に転ずると相変わらず北の脅威は払拭されず短距離ミサイル実験は繰り返されその精度は向上しているものとみられ更なる脅威となってきています。

日韓関係は徴用工問題から急激に悪化しており、ぎりぎりになって何とか回避されたものの軍事情報包括保護協定(GSOMIA)が破棄されかけ瀬戸際にまで進み北への防衛体制に大きな不安を生じています。日本の自国防衛努力を強調する論説も大きくなり防衛予算の厖大化等経済への影響が懸念されるところです。また中東はイラン・シリア・トルコな

ど相変わらず大きな世界の火種となっており、石油戦略などによる日本への影響も大きなものがあります。

さて医療に関しては地域医療構想において、病床機能報告を検討したうえで、厚労省は唐突に424医療施設に対し統廃合を含めた病床利用計画の再検討すべきものとして公表されました。当院もその対象となったわけですが、2017年報告した実績に基づく評価であり、当院はおよそ20km以内に同様の機能を有する施設のあるものとして厚生連・済生会・日赤各病院と共に公表されたものでした。都市圏におきましては近距離に多くの施設が存在することは歴史的必要性・地理的・社会的合理性から生まれ定着してきたもので、急激な統廃合などは大きなストレスを生じるもので困難を極めるものと思われます。その財源など地域医療を考慮したうえでの行政の巧みな指導や協力なくしてはなしえないものと考えます。また今後も2025年まで当院周辺のいわゆる地域包括ケアシステム対象地域の医療ニーズは高まり続けるという統計情報もありますし、我々は高次機能・急性期・回復期などの現状認識を質的・量的に把握して、2025年に向け適正なベッド数に収束していくべく本年度255床から199床（実際の運用は現時点で急性期病棟124床（HCU8床）、地域包括ケア病床（22床）、緩和ケア病棟31床合計177床であります。）としたばかりであり、今後は医師会各医療施設のご協力を賜り稼働率の適正な維持を図ることが求められるという認識であります。

更に導入された働き方改革におきましては医師に関しましても2022年には導入すべき働き方改革に対して36協定を行い、医師の残業時間の把握、過剰な労働制限などの上限規制に向けて着手しております。しかし他の業種（薬剤師など）の人数確保の問題は人口減少に伴い困難を極めるため病院の存立に大きな問題となると思われ今後も大きな問題となり

そうです。

医師会病院の理念である会員のための病院としての機能維持を意識して第三回目の医師会連携施設との懇談会を8月28日、10月9日の2度に分けて開催することができました。いずれも盛況で今後の病院運営にも期待が持てるものでした。しかし、上半期の営業実績は毎年のトレンドとはいえ、キャッシュベースでも予想外のマイナスでした。院内ではお断りをしない事、支出のさらなる削減を図るなどの努力を行っています。しかし医師会員の皆様の今後の利用率向上がなければ体制維持が困難を極める恐れがあるため、引き続きご支援を賜りたく存じます。

スタッフでは消化器内科に児玉先生が赴任。消化器内科は常勤医師5人で、検査など余力を蓄えてあります。脳神経内科は一人増員で神経内科専門医の派遣となりました。循環器と並び急患を受けいれ、病床稼働目標を達成し続けている科であり、大学両医局のご支援に感謝申し上げる次第です。婦人科の牧瀬先生は9月いっぱい医療センターに異動となられました。三人体制に戻った次第ですが医局のご協力を得て、毎週火曜日に手術の対応で補充をいただけたこととなりました。

医師会病院は開院以来紹介型病院の基本姿勢を貫いてまいりました。繁栄も衰退も医師会員の皆様のお考え次第です。なにとぞ今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、基幹型研修医には一人マッチングしました。現在大学協力型二人と合わせて五人の若者が研修中です。若き医師を育てていくことが将来の安定した後継者づくりに貢献できると考えます。

以上、医師会病院が皆様とともに地域医療のニーズにお応えしていくよう努力する決意を新たに致しまして年頭のご挨拶といったします。今年もご支援をよろしくお願ひいたします。